

本学習指導案のポイント（ 高校教育指導課 指導主事 中村 誉子 ）
 ○目標の達成に向けて「批判的思考力」と「知ろうとする力」を用いるよう意図し、他者からの意見を参考にしたり、自らの意見を明確に表現したりする場面で活用させるなど、生徒に深く思考させるための工夫がある学習活動となっている。
 ○デジタル機器で多くの情報を閲覧させながら様々な視点の問いを投げかけ、個人で調べたり、ペアで協議したりする手立てが効果的に設定され、このことが生徒の視野を広げ、思考を深めることに有効であった。

- 1 実施日：令和7年9月3日（水）5限：13時30分～14時20分（50分）
- 2 学年・学級：1学年1組（41名）
- 3 単元名：住生活をつくる
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領家庭科科目「家庭基礎」のB 衣食住の生活の自立と設計(3)住生活と住環境に位置付く。ここでは、家族が安全で快適かつ健康な生活を営む場としての住居について、防火、防犯、耐震などの安全性や日照、採光、換気、遮音、温熱、空気環境、高齢者、障害者などへの配慮など住生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

(2) 生徒観

年度当初に行った中学校での学習の理解度を問うアンケートでは、住居の防災、安全な住居の工夫、健康な住生活の工夫についておおむね理解していると回答した生徒はそれぞれ61.0%、58.7%、55.9%と半数以上を占めており、快適で安全な住居についての知識はある程度備えていると考えられる。しかし、将来自分が住む家について考えて実際に物件を調べてみたことがあるという生徒はクラスに1～2名と少なく、知識を活用して主体的に自分の住環境について考察を深めた経験がある生徒は少ない。また、本校教員研修において本校生徒の強みと弱みを整理した際には、強みとして「素直さ」や「真面目さ」が挙げられた一方で、弱みとしては「知ろうとする力」や「批判的思考力」が挙げられている。大きな契機となる住居の計画においても、多面的に情報を収集し、批判的思考力をもって論理的に考察をする力の育成が必要であると感ずる。

(3) 指導観

本授業では、実際に高校を卒業後に一人暮らし等を始める生徒が多いことから、3年後に住む住宅の選択を設定し、自分事として考えさせることで「知ろうとする力」や「批判的思考力」を高めることとする。住居の特性上、衣生活や食生活と異なり、購入や契約をする機会は人生において数回程度である。生徒の人生における重要な選択を支援する授業となるようにしたい。教材には、生徒が興味をもち、かつ操作性の高い住居選び情報サイトを活用し、自然に楽しみながら住居選びを体験することができる構成とする。単なる良い物件探しではなく、「自らの価値観をどのように反映させたか」というプロセスを重視し、教員の失敗談やチェックリストも活用することで、「家賃が安い家」や「新しい家」などの安易な選択に偏らないよう工夫するなどして、本校生徒の弱みとして挙げられている「知ろうとする力」と「批判的思考力」を養い、生涯を通じて安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫することができる力の育成を図る。

5 単元の目標

- (1) ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。
- (2) 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践することができる。

6 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 | 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |

7 指導と評価の計画（全4時間）

| 次 | 学習内容（時数） | 評価 | | | | 評価方法 |
|---|--|----|---|---|--|------------------|
| | | 知 | 思 | 態 | 評価規準 | |
| 1 | 住居の機能と安全快適な住生活（1時間） 【良い住居ってどんな住居？】 | ◎ | ○ | | ・生活行為と住居の関係、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解している。（知） ・間取り図から生活上の問題を見出している。（思） | 定期考査記録 ワークシート |
| 2 | 自分の3年後の家について考えよう（1時間） 【①3年後に自分が住みたい家はどんな家だろうか？②なぜ自分に合った家選びは難しいのか？将来どのように家選びをすればいいのか？】 | | ◎ | ◎ | ・3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて説明している。（思） ・住居選びに興味を持ち、将来の住居選びに生かそうとしている。（主） | ワークシート記録 |
| 3 | 自分の15年後と30年後の家について考えよう（1時間） 【自分の15年後、30年後にふさわしい家ってどんな家だろうか？】 | ◎ | ◎ | | ・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。（知） ・ライフステージに応じたよりよい住生活に向けた課題について、解決策を構想し、根拠に戻って論理的に表現している。（思） | 定期考査記録 ワークシート |
| 4 | 日本の100年後を見通した家について考えよう（1時間） 【100年先を見通した日本の住居、どうしたいの？】 | ◎ | ○ | ○ | ・安全や環境に配慮した住生活や住環境について理解している。（知） ・持続可能な住居や、地域やまちづくりの担い手になるために、環境に配慮した次世代につながる住生活について考察し、表現している。（思） ・安全や環境に配慮した次世代につながる住生活や住環境について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。（主） | 定期考査記録 ワークシート |

※◎は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点、記録は、記録に残す評価

8 本時の展開

- (1) 本時の目標
- ・3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて説明することができる。
 - ・住居選びに興味を持ち、将来の住居選びに生かすことができる。
- (2) 観点別評価規準
- ・3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて説明している。(思考・判断・表現)
 - ・住居選びに興味を持ち、将来の住居選びに生かそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)
- (3) 準備物
教科書(東京書籍)、ワークシート、chromebook、教員用PC、プロジェクター
- (4) 学習の展開

| | 学習活動 (○発問、●予想される生徒の反応) | 指導上の留意事項(◇) ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て | 評価場面 (評価方法) 【評価の観点】 |
|---------------|--|---|---|
| 導入 5分 | 1 住居選びの失敗例について知る。 | ◇高陽高校の先生方が過去に住居選びで失敗した事例について事前に伺い、紹介する。 | |
| | 2 本時のメインクエストを確認する。 MQ①3年後に自分が住みたい家はどんな家だろうか? MQ②なぜ自分に合った家選びは難しいのか?将来どのように家選びをしたら良いのか? | ◇本時の目的は「知ろうとする力」と「批判的思考力」を働かせて取り組むことであることを理解させる。 | |
| 展開 35分 | 3 賃貸契約について知る。 ○ 家を借りる「賃貸」の契約ってどれくらいお金かかるの? ●10万円程度 | ◇住居を借りることは思いの外高額であるため、熟考することが重要であることを理解させる。 | |
| | 4 家選びの条件について考える。 ○ 自分の家選びの条件何が大切? ・安全性・保健性・利便性・快適性 ・持続可能性・経済性 | ◇再び高陽高校の先生方が過去に住居選びで失敗した事例を読み込み、自分の価値観のヒントにする。 ◇チェックリストをもとに自分の家選びで優先させたい条件を絞り込ませる。 | |
| まとめ 10分 | 5 実際に家の一つを選び、評価する。 ○ この家は3年後に自分が住みたい家に当てはまるだろうか? ① 選んだ住居が自らの価値観を満たしているか自分の意見をまとめる。(個人作業) ② ペアで自分の住居を紹介し合い気づきを述べ合う。(ペアワーク) ③ ペアの意見も踏まえて、選んだ住居についてさらに深く検討する。5つの条件についてこの住居のどの部分がどのように当てはまるかを挙げていく。(個人作業) ●2階にあるから安全性が高い。 ●2階にあるから階段の上り下りが 大変で利便性が低い。 ●広いので快適性が高い。 ●広いので掃除が大変であり利便性が低い。 | ◇Chromebook を使用し、賃貸情報サイトから住居の一つ選ばせる。 ◇同じ住居でも見る人が変わると価値観が変わって捉え方が変わることや、賃貸情報サイトに強調されている部分でも見方を変えるとメリットにもデメリットにもなりうることを説明し、失敗を防ぐには知ろうとする力を働かせ、批判的に考察することが重要だと気づかせる。 ◆周辺地図や住居写真、間取りなどを見せ、困ることがないかを考えさせる。 ◆優先する価値観が異なるペアに同じ住居について考えさせ、どのように意見が異なるかを比較させる。 | ・3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて説明している。(思考・判断・表現) ・住居選びに興味を持ち、将来の住居選びに生かそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) |
| | 6 本時のまとめを行う。 ○ MQ①3年後に自分が住みたい家はどんな家だろうか? ●初めての一人暮らしで心配なので、自分は安全性の高い家に住みたいと思う。2階以上、オートロック完備といった家に住みたい。 ○ MQ②なぜ自分に合った家選びは難しいのか?将来どのように家選びをすればいいのか? ●住居を構成する要素や評価する指標はさまざまであり、同じ条件であっても見方によって良い住居かどうかは変わる。1つの角度からではなくいろいろな面から判断していきたい。 ●住居に対する欲求は人それぞれであり、同じ条件であっても自分にとっていい住居かどうかは人によって変わる。他人のアドバイスも取り入れながら自分にとっての優先順位をよく考えて、安易な判断にならないようにしたい。 | ◇最終的に特に自分が優先すべきだと考えた価値観とその理由、具体的にどんな住居に住みたいかを自分の言葉でまとめさせる。考える過程で、重要視する価値観が変化していてもよいことを伝える。 ◆自分が検討した住居のどんなところが気に入っているのか、または気に入っていないのかを参考にするよう指示する。 ◇本時の学びを通して気づいたことや、将来の家選びに覚えておきたいことをまとめさせる。 ◆ペアワークで相手の考えを聞いて気づいたことがないか考えさせる。 ◆1つの住居について5つの条件から考えることで気づいたことがないか考えさせる。 | |
| 7 次時の内容を確認する。 | | | |

(5) 判断基準

| 評価 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------|---|---|
| A (十分満足できる) | 3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて根拠を持って具体的に説明することができる。 | 住居選びに興味を持ち、知ろうとする力と批判的思考力をはたらかせて、将来の住居選びに生かそうとしている。 |
| B (おおむね満足) | 3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて説明することができる。 | 住居選びに興味を持ち、将来の住居選びに生かそうとしている。 |
| C (努力を要する) | 3年後に自分が住みたい家について、自分の価値観を踏まえて説明することができない。 | 住居選びに興味を持ち、将来の住居選びに生かそうとしていない。 |